

【別紙様式2】(小学校用)

フロンティアスクール用報告書

都道府県名	広島県
-------	-----

I 学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	戸河内町立戸河内小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	1	1	1	1	1	1	1	7	13
児童数	10	13	7	13	10	13	1	67	

II 研究の概要

1. 研究主題

基礎・基本の定着を図り、学びを高める授業の創造  
 ～国語科・算数科における個に応じた指導の工夫を通して～

2. 研究内容与方法

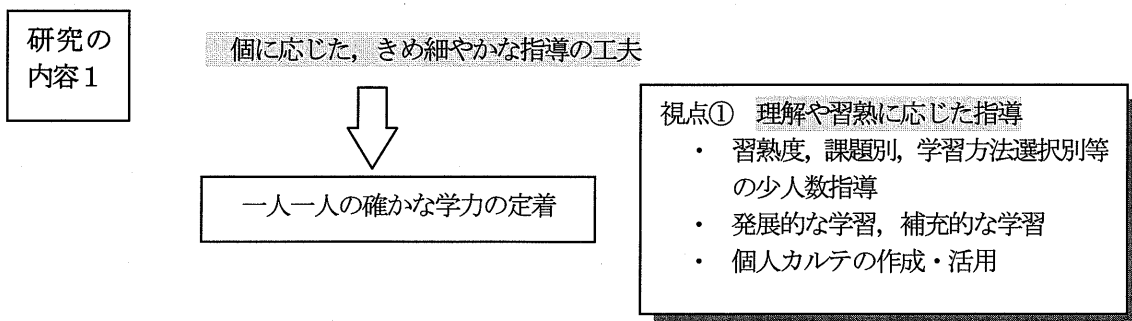
(1) 実施学年・教科

- 第1学年～第3学年・国語  
 全ての教科の基礎となり、最初に言葉に触れる大切な時期であるため。  
 本校児童の実態として「自分の考えを持つこと」「自分の考えを相手に伝えること」が不十分であるため、豊富な語彙や論理的に思考する力を身に付けさせたいと考えた。
- 第4学年～第6学年・算数  
 学習内容の定着が不十分、また、筋道を立てて考えることができにくい、理解の状況に差がある等の児童実態がある学年であるため。  
 1～3学年で身に付けた論理的に思考する力を、4～6学年の算数科での数学的に考える力につなげたいと考えた。

(2) 年次ごとの計画

平成15・16年度

- テーマ 国語科・算数科における個に応じた指導の工夫
- 研究の見通し  
 研究主題にせまるために、次の4つの研究内容と研究の視点を定め具体的な取り組みとその検証を進める。



視点② 繰り返しの指導

- ・ 週3回の漢字と計算を中心にしたパワーアップ朝会
- ・ 学力補充タイムの設定

視点③ 個に応じた指導のための  
単元構成、教材開発

- ・ 単元構成の見直し
- ・ 習熟度や課題別に応じた教材開発

研究の  
内容2

評価方法を明確にした指導の工夫



自ら学ぼうとする学習意欲の高まり

視点① 評価規準を明確にした指導計画の  
作成

- ・ 児童が明確なねらいや課題意識を持つことができる授業づくり
- ・ 評価規準に沿った肯定的評価

視点② 個に応じた評価の工夫

- ・ 学年ごと単元の到達目標や達成状況について一人一人の児童の定着をまとめるカルテの作成活用

研究の  
内容3

学習の基礎となる力の育成



学びの質の高まり

視点② 学習・生活意識の実態調査

- ・ 学期ごとに全学年の学習と意欲の実態把握を行い、学習の定着と生活の自立に向けての指導に活用

視点① 基本的な生活習慣・学習規律の定着

- ・ 1学期の学校重点目標として設定
- ・ PTA 総会や学級懇談での呼びかけ
- ・ 家庭学習の仕方をプリントにし配布

視点③ 幼、小、中の連携

- ・ 一貫した学習規律の確立
- ・ 授業の交流

研究の  
内容4

教職員の指導力の向上



個に応じた指導法の工夫改善の推進

視点② 保護者へのアンケートの実施

- ・ 参観日終了後の保護者へのアンケートによる指導体制・指導力の見直し、向上

視点① 教科リーダーの授業視察

- ・ 県内の優れた教科リーダーの授業の視察→自分自身の指導力の見直し、向上

視点③ 一人年間3回の授業研究の実施

- ・ 個に応じた指導法についての研究推進
- ・ 指導内容・指導方法の工夫改善

## ○ 研究の内容・方法

### ア 研究内容1にかかわって

#### (ア) 個に応じた指導方法の工夫・改善

本校は一学年一学級なので、学級を解体して学習集団を作るということはない。すべて学級内少人数指導となる。そのため、指導方法工夫改善の加配教員が入って二人体制で行う少人数指導はもちろん、指導者が一人で行う**一人少人数指導**に取り組んでいる。

#### 一人少人数指導

##### 国語科において

学習活動に対して、自力解決できる子と支援がいる子がいる。そのときに、自力解決できる子は自分の考えをどんどんまとめたりふくらませたりさせていながら、支援が必要な子には「ヒントマン」が登場して、考える方向性を与えている。子ども自身が自分でコースを決め、支援がほしいときは「ヒントマン」のところへいくようにしている。ただし、すぐヒントを与えるのではなく、そこでも考える時間はしっかりとるようにし、自分の考えを持たせるようにしている。

説明文の読み取りや、作文を書くときなどは有効であると考え。具体的には、3年生「動物とくらす」において実践した。

##### 算数科において

一斉指導をした後、基礎・基本の確実な定着と発展的な学習でより力を伸ばすことを目的として、一人習熟度別指導を行っている。その日の学習内容を定着させるコースと発展コースに分かれる。答えは教室の横の机に置いておき、できたら自分で丸をしにいく方法をとっている。答えにはヒントカードもついていて、分からないときはまずヒントカードを見に行き、そして解決するようにさせている。指導者は、主に定着コースにつくが、一人習熟度別指導を行うことにより、その中でもしんどい子にしっかりつけるようになってきた。6年生「体積」および「分数のかけ算」において取り組んできた。

#### 二人少人数指導

##### 国語科において

課題別学習をするときや、作文の学習などの時に少人数指導を行っている。子どもの興味・関心に応じて細かに支援することができ、また、作文では基本形をしっかりとマスターすることや、子どもの想像をふくらませ、技法も色々使って書くことができるようになる。1年生「じどう車くらべ」では、自分の調べたい自動車について、コース別に分かれて行った。2年生「お手紙」においては、がまくんになってかえるくんにお手紙を書くときに、子どもたちの書く力の実態を考えてコース別に分かれて行った。

##### 算数科において

準備テストや担任とのガイダンスによりコースを決め、2つに分かれて習熟度別学習を行う場合と、子どもの興味・関心により2つに分かれて課題別学習をする場面がある。

これまで行ってきた習熟度別学習には、4年生「わり算」や5年生「同じものに目をつけて」、6年生「分数のかけ算」がある。また、課題別学習では5年生「面積」の単元で行ってきた。

#### (イ) 児童の学びを広げる様々な取組み

- ・ パワーアップタイム
- ・ 3分間音読
- ・ 読書
- ・ 習字
- ・ 視写活動
- ・ 本の読み聞かせ
- ・ 百ます計算
- ・ ノート作り

### イ 研究内容2にかかわって

- (ア) 1 単位時間の授業の評価規準を1つにしぼり、授業の検証の視点を明確にする。
- (イ) 授業のはじめに“めあて”を明確にし、児童の課題意識、学習意欲の向上を図る。
- (ウ) 個に応じた指導の充実をめざした個人カルテの作成をする。

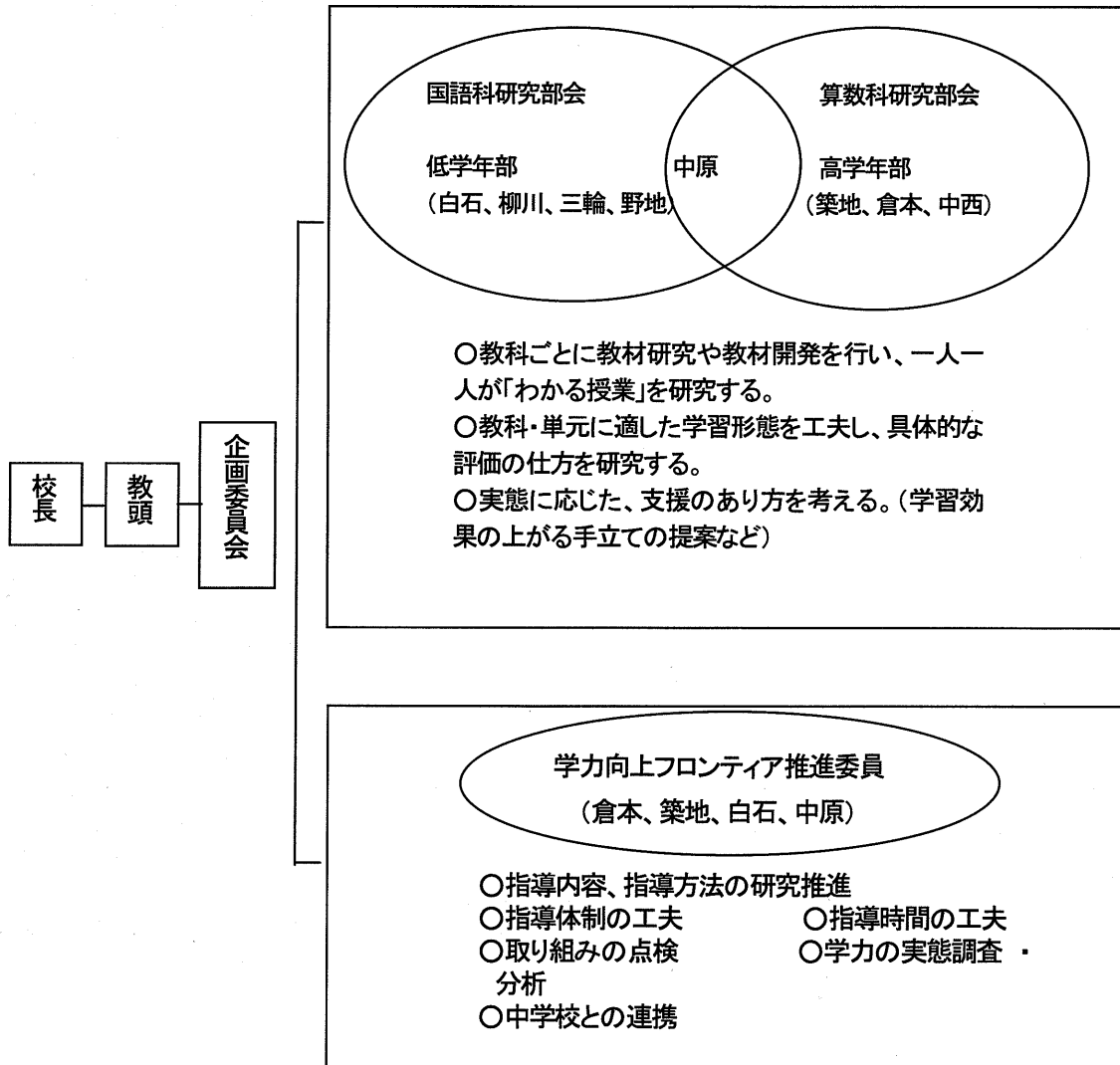
ウ 研究内容3にかかわって

- (ア) “授業規律” “学習規律” “生活のきまり” を作成し、全教職員が共通理解のものと定着を図る。
- (イ) “家庭学習の仕方” のプリントを配布するとともに、各学年に応じた宿題の取組み。
- (ウ) 学習・生活意識の調査を実施し、学習の定着と生活の自立に向けた指導に活用する。

エ 研究内容4にかかわって

- (ア) 1 人年間3回の授業研究の実施と指導案の作成を6回行う。
- (イ) 県立教育センターの講座を全教職員受講する。
- (ウ) 保護者参観を学期2回実施する。また、その際、保護者へのアンケートを実施し、学校の取組みや授業改善に生かす。
- (エ) 教科リーダー視察を行なう。

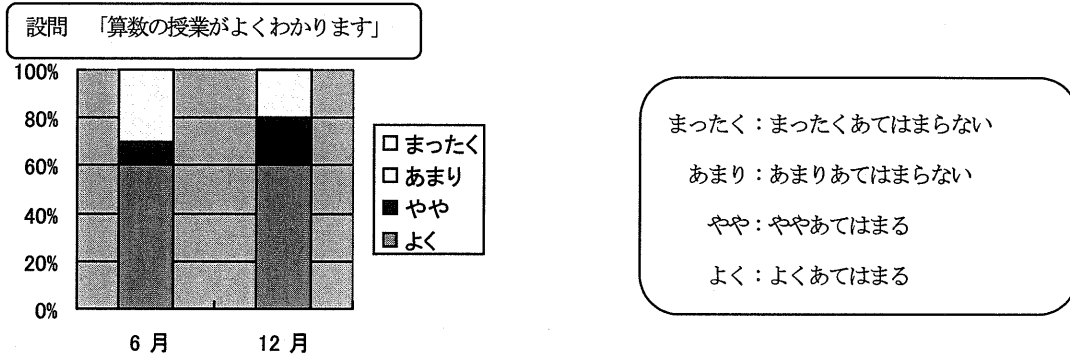
(3) 研究推進体制



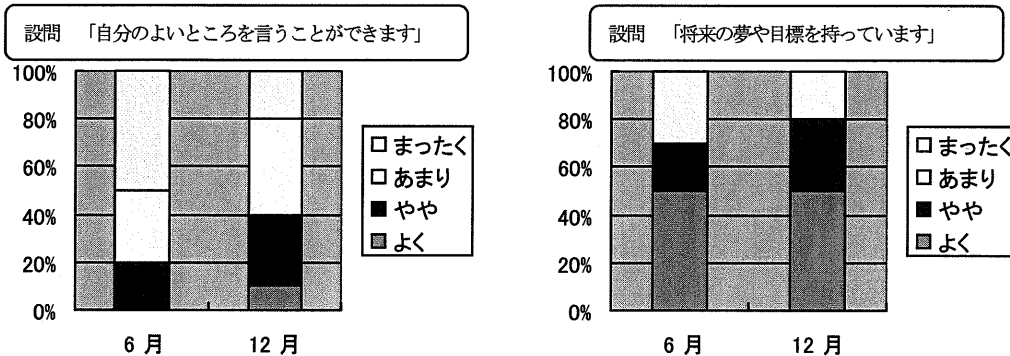
III 平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

- 習熟度別学習・課題別学習により、興味・関心を持って意欲的に学習している。  
例えば、「算数の授業がよくわかります」という設問に対して6月よりは12月の方がわずかではあるが肯定的評価が増えている。



- 児童の中に学習リーダーが育ち、友だち同士の教え合いが見られるようになった。
- 児童が学校生活や学習に向かう姿勢が少しずつ積極的になってきた。



- パワーアップタイムなどの繰り返し学習で、基礎的な学習内容や既習事項の定着が図られてきた。
- 算数科で「ふり返りカード」を実施することで、自分のつまづきや新たな課題を見つける力が少しずつついてきた。
- 日曜参観日や学校行事等で保護者や地域の方へアンケートを実施し、取組みの改善に生かすことができた。

## 2. 今後の課題

### 研究内容1

- 一人少人数指導の充実
- 習熟度別学習・課題別学習の指導の工夫・改善
  - ・単元の指導計画や単元構成の整理や教材の開発を行う。

### 研究内容2

- 個人カルテの活用
  - ・国語科・算数科に焦点をあてた個人カルテを活用し、個に応じた指導と評価に生かす。

### 研究内容3

- 学習・生活意識の実態調査実施
  - ・学期ごとに実施し、基本的な生活習慣・学習規律の定着を図り「学びの基礎力」を身に付けることにつなげる。

### 研究内容4

- 教科リーダーの授業視察

- 保護者への定期的なアンケートの実施
  - ・ 学校の取り組みを客観的に検証する。

その他

- 仮説に対する検証の視点及び検証の方法を明確にする。

#### IV 学力等把握のための学校としての取組

##### ○NRTテスト

- 日時 平成15年 6月16日(月)～ 20日(金)
- 目的 学習の成果を集団内の相対的位置で明らかにして、学力水準の把握や指導に生かす。(その年度の一人一人の児童の指導に役立てる)
- 内容 一学期末の担任と児童との教育相談や保護者懇談でも活用している。

##### ○CRTテスト

- 日時 平成16年 2月 2日(月)～ 5日(木)
- 目的 一人一人の児童の目標到達の度合いを明らかにして、到達していない児童への指導を徹底させる。(主には、今年度の取組みの検証と次年度に向けた指導計画の作成に生かす)
- 内容 三学期末の担任と児童との教育相談や保護者懇談でも活用している。

##### ○生活・学習状況実地調査

- 日時 平成15年 7月、12月、2月
- 目的 児童の生活や学習に対する意識、状況を把握し、学校生活や家庭生活、また、授業等の改善に役立てる。
- 内容 学期ごとに全学年の学習や生活の意欲の実態調査を行い、指導の改善に生かしている。

#### V フロンティアスクールとしての研究成果の普及

##### ○ 戸河内小学校公開研究会

- 日時・・・平成15年11月20日(木)
- 対象・・・教育関係者、学校関係者、地域・保護者 90名
- 目的・・・学力向上フロンティア校としての実践を公開し、広く示唆を求め今後の研究・研修に生かす。

##### ○ フロンティア通信の作成

学期ごとに作成し保護者に配布し、学校の取り組みを知らせる。

##### ○ HPを作成、更新し研究成果の普及に努める。

○ 芸北地区協議会において、管内小・中学校に研究の方向性や具体的な取り組みなどについて、発表する。

- ・ 第1回芸北地区協議会 7月29日 千代田町役場
- ・ 第2回芸北地区協議会 11月 7日 向原小学校・向原中学校
- ・ 第3回芸北地区協議会 12月 9日 土師ダム研修センター
- ・ 第4回芸北地区協議会 2月 5日 芸北地域事務所

◇ 次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

【新規校・継続校】

15年度からの新規校  14年度からの継続校

【学校規模】

6学級以下  7～12学級  
 13～18学級  19～24学級  
 25学級以上

【指導体制】

少人数指導  T. Tによる指導  
 一部教科担任制  その他

【研究教科】

国語  社会  算数  理科  
 生活  音楽  図画工作  家庭  
 体育  その他

【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】

有  無

## 国語科学習指導案

指導者 三輪 信幸

1. 日時 平成15年11月20日(木)
2. 学年 第3学年 7名
3. 単元名 正かかにつたわるように書こう  
「言葉でスケッチ」

### 4. 単元について

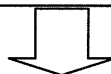
#### (1) 単元のとらえ・この単元で身につけたい力

本教材は、絵や写真の場面の様子を、文章に正確に表す学習である。様子がはっきりとよく分かる文章を書くには、何気なく見過ごしている物事に改めて目を向けて細かく観察すること、見たことの一つ一つを適切で的確な言葉でとらえること、が必要である。そのために、視点を変えながら、繰り返し文章作成に取り組むことにより、次の力を本単元において伸ばしていきたい。

#### 本単元でつけたい力

- 伝えたいことにふさわしい材料を選び、適切な構成（段落間のつながりなど）、文の長さ、また的確な言葉で書く力

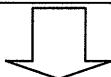
また、児童が意欲的に取り組めるよう、学習内容を深める時点で、作文と絵を用いたゲームを学習内容に取り入れる。



#### (2) 子どもの実態

本学級の児童は、国語や他教科においても、理解力がある姿が見られ、NRT検査を見ても一般的に平均値を上回っている。また、本を読むことが好きで、積極的に読書に取り組んでいる児童が多い。朝の音読朝会でも、児童は静かに読みたい本を選び、時間いっぱい集中して読書をしている。2学期から全校で始めた「どくしょきろくカード」にも、読んだ本を積極的に記入していく児童の姿が見られる。また、大きな声で、気持ちを込めた音読ができる児童も多い。しかし、読書をし、音読も上手にできていても、内容を正確に理解しておらず、文章や言葉の関わり(主語や述語など)を正確に理解できていない姿も見られるときがある。

児童は1学期の「知っている場所を教えます」の学習において、一つ一つの内容をていねいにまとめ、整理して並べていくと、分かりやすい文章が書けることを学習している。本単元においても、書く必要のあることを選ぶこと、段落相互の関係を考えて書くこと、を細かくていねいに、そして繰り返し学習し、正確に伝わる文章を書くことができるようにしていきたい。それはまた同時に、正確に文章を読み取る力にもつながっていくものと思われる。





### (3) 指導にあたって

#### 視点1 個に応じたきめ細やかな指導の工夫

- 習熟度に応じた指導をする。
  - ・ 課題の達成に困っている児童には、細かな支援をする。(ヒントなど)
  - ・ 課題の達成が早い児童に対しては、活動内容を増やすなど、発展課題を出す。
- 作文に取り組みにくい児童に対して、学習活動にゲームを取り入れることにより、学習意欲を高める。
  - ・ 第2次において、一人一人が絵を選び、その絵を説明する文章を書く。その文章を問題文として、他の児童が想像して絵を描き、元の絵を当てるというゲームを行う。

#### 視点2 評価方法を明確にした指導の工夫

- 作成した文章を発表し、お互いの文章のよいところ、足りないところを交流することにより、課題を明らかにする。
- ゲームでは、文章が伝わりやすいように正確に書かれているか、また、文章を正確に読みとっているかを、楽しみながら検証していく。

### 5. 単元の目標

- ◎ 絵の様子が伝わるように、適切に表現しようとする態度を育てる。  
( 関心・意欲・態度【学習指導要領の目標(2)】)
- ◎ 絵や写真の場面の様子が正確に伝わるように書く。  
( 書くこと【学習指導要領の内容項目 B イ・エ】)
- ◎ 表現するために必要な語句を増やし、また、語句には性質や役割のうえで類別があることを理解する。  
( 言語事項【学習指導要領 (1) エ(ア)】)  
修飾と被修飾との関係など、文の構成に初歩的な理解をもつ。  
( 言語事項【学習指導要領 (1) オ(ア)】)

### 6. 単元の評価規準

ア国語への関心・意欲態度	イ話す・聞く能力	ウ 書く能力	エ 読む能力	オ言語についての知識・理解・技能
① 適切に表現しようとしている ② 文の構成に関心をもって聞こうとしている		① 書く必要のある事柄を選択している ② 書こうとする事柄の中心を明確にしなが、段落相互の関係を考えている		① 表現するために必要な語句を増やしている ② 修飾と被修飾の関係など、文の構成について初歩的な理解をもっている

### 7. 指導計画 (全6時間)

次	時	目標	学習内容	評価規準	指導形態
1	1	多様な観点から、女の子の様子を多く書く	女の子の様子を細かく観察し、表に書く	絵に忠実に、的確な言葉で書き表している (オ①,②)	一斉
	2	伝えたいことにふさわしい材料を選び、適切な構成(段落)で書く	伝えたい女の子の様子があくわしく分かるように、材料を選んで順序良く文章にまとめる	書く必要のある事柄を選択している (ウ①,②)	一斉
	3	伝えたいことにふさわしい材料を選び、適切な構成(段落)、文の長さ、また的確な言葉で書く	絵の中のほかの人物について、様子があくわしく分かるように文章を書く	前時までの学習を生かして、家族の様子を文章化している (ウ①,②)	一斉 習熟度別
	4	伝えたいことにふさわしい材料を選び、適切な構成(段落)、文の長さ、また的確な言葉で書く	絵全体の様子分かるように文章を書く	適切な順序で段落ごとに書いている (ウ①,②)	一斉
2	5 (本時)	伝えたいことにふさわしい材料を選び、適切な構成(段落)、文の長さ、また的確な言葉で書く	絵当てゲームに向けて、一人一人が選んだ絵をもとにして、様子があくわしく分かる文章を書き、次時の問題文とする	前時までの学習を生かして、自分が選んだ絵の様子を文章化している (ウ①,②)	一斉 習熟度別
	6	情景を、友だちの作文を基に想像しながら読みとる	友達が書いた問題文をもとにして、絵を描き、元の絵を当てる	③ 文の構成に関心をもって聞こうとしている (ア②)	一斉

## 8. 本時の展開

### (1) 本時のねらい

- 伝えたいことにふさわしい材料を選び、適切な構成(段落)、文の長さ、また的確な言葉で書く。

### (2) 観点別評価規準

(書くこと)

- ・書く必要のある事柄を選択し、段落と段落の続き方を考えて問題文を書いている。

### (3) 本時の提案

個に応じた指導の工夫として、少人数学級における習熟度別指導を用いた授業を提案する。

### (4) 準備物

- ・導入における問題例
- ・絵を描く画用紙
- ・ワークシート
- ・ヒントカード

### (5) 学習の展開



# かていがくしゅう しかた 家庭学習の仕方

平成15年度 戸河内小学校

いえ しゅくだい つぎ  
家で宿題をするとき、次のことをがんばってみよう！

れんらくちょう か かてい  
○ 連絡帳に書いた家庭  
がくしゅう じゅんびもの かくにん  
学習や準備物を確認  
する。(チェックをしてい  
くといいね)

ていがくねん  
低学年

まいにち ぶんかん べんきょう  
○ 毎日20分間、勉強をす  
る。(学年終わりには  
30分できるように)

まいにち ぶんかん おんどく  
○ 毎日5分間の音読  
れんしゅう  
練習をする。

これで

宿題は

バッチリだ！！

ちゅうがくねん  
中学年

まいにち ぶんていど かてい  
○ 毎日30分程度の家庭  
がくしゅう つづ じぶん  
学習を続け、自分  
べんきょう ちょうせん  
勉強に挑戦する。  
(学年終わりには  
45分できるように)

がっこう わす もの  
○ 学校に忘れ物をした  
ときは、自分から先生  
れんらく と  
に連絡し、取りに来る  
などしよう。

こうがくねん  
高学年

まいにち ぶんていど かてい  
○ 毎日40分程度の家庭  
がくしゅう つづ よしゅう  
学習を続け、予習や  
ふくしゅう じぶん べんきょう  
復習など自分勉強を  
する。(学年終わりには  
60分できるように)

きんようび しゅーず  
○ 金曜日はシューズ  
をもって帰り、自分  
であら たいそうふく  
で洗おう。体操服・  
きゅうしよく ぎ  
給食着をきちんと  
出そう。

さいご あした じかんわり  
○ 最後に、明日の時間割  
かくにん ひつよう  
を確認し、必要なものを  
じゅんび  
準備する。

※分からないことがあったら、どんどん先生に聞こう。

おうちの方へ

「家庭学習の仕方」のプリントを配りました。最初からはなかなかできないと思いますが、少しずつ自覚し、できるようになっていければと思っています。子どもさんががんばっている時はしっかりほめてあげてください。ご理解とご協力をよろしくお願いします。

## 授業規律について

平成15年度 戸河内小学校

### ◎ 授業の約束の基本

児童に身につけさせたいこと	教 師
1 授業の前にトイレに行っておく。 2 授業の準備をして、机について待つ。 ・教科書・ノート・ドリルなど ・鉛筆5本、赤鉛筆、消しゴム、定規など (忘れ物をしたときは、授業の始まる前に先生に連絡する。 電話をして家の人に持ってきてもらわない。) 3 休み時間の間に鉛筆を削っておく。 4 先生の話・友だちの発表をしっかりと聞く。 5 まちがいをおそれず、積極的に発表する。 6 終わったら片づけをし、次の授業の準備をしておく。	1 チャイムが鳴り終わるまでに教室に入る。 2 授業の準備ができているか確認する。 3 本時のねらい・目標を児童に提示し、理解させる。 4 授業中の指示(聞く・考える・まとめる・発表する・書く・作業する)をはっきりし、場面の切り替えをしっかりさせる。 5 発問や板書を工夫する。 6 児童の理解を確認しながら授業を進める。 7 最後に本時のねらい・目標に照らしてまとめを行う。


### ◎ 授業の約束の具体的な内容

児童に身につけさせたいこと	教 師
1 チャイムが鳴り終わるまでに席について、授業の準備をしておく。遅れてしまったら「おくれてすみません」といって教室に入り、先生に理由を言う。 2 始まりは日直が号令をかける。 「姿勢 これから〇〇を始めます 『はい』 礼 『お願いします』」(大きな声で姿勢を正して) 3 発表するときは右手をまっすぐ挙げて、指名されたら返事をし起立してから言う。 4 座るときは足を足で引かず、手で引き寄せる。 5 発表する人の方を見る。 6 ノートの字は丁寧に書く。(下敷きをする。) 7 1時間を振り返り、「振り返りカード」に記入する。 7 終わりの号令がかかったら、していることをやめて姿勢をする。(本やノートなど片づけ始めない。) 8 日直が終わりの号令をかける。 「姿勢 これで〇〇を終わります 『はい』 礼 『ありがとうございました』」	1 チャイムが鳴り終わるまでに教室に入り、児童の様子を把握する。遅れてきたら『おくれてすみません』と言うことを指導し、理由を聞く。 2 日直に号令をかけさせる。(全員が学習する姿勢になるまで待つ。) 3 本時のめあてを必ず確認する。(板書する) 4 発言するときは必ず手を挙げさせ、指名してから発言させる。「はい」の返事と、「～です。」と最後まで言うことを指導する。 5 発表する人のほうを見て聞くように指導する。 6 発問はわかりやすく言う。 7 板書計画を立て、わかりやすい板書を工夫する。(字の大きさや色など) 8 ノートの書き方を工夫させる。(人にも自分にもわかりやすく) 9 授業のまとめの時間は、めあてに照らしながら内容を整理し、全員が理解できるようにする。(評価) 10 「振り返りカード」で自己評価させる。 11 次の予告を必ずする。 12 終わりの号令を日直にかけさせる。

### ◎ ノートの書き方

- ・ 日にちは必ず書かせる。
- ・ 本時のめあてを板書し、ノートに書かせる。
- ・ 一まずに一字書かせる。(数字の場合も同じ。だから分数の場合は2行を使うことになる。)
- ・ 筆算・分数を書くときは、必ずものさしを使って書かせる。
- ・ 下敷きをさせる。
- ・ 余白も必要なことを教える。
- ・ 高学年は、板書だけではなく、先生の言葉も必要によっては書き留めていけるように指導していく。
- ・ 鉛筆の正しい持ち方を指導していく。
- ・ 書くときの姿勢に気をつけさせる。

とごうち  
**フロンティア通信**



戸河内小学校  
平成15年8月4日

**フロンティアスクールスタート!!**

戸河内小学校では、今年度文部科学省から「学力向上フロンティアスクール」の指定を受け、子どもたち一人一人にきめ細かい指導を行い、学力を向上させようという目標を掲げ、研究に取り組んでいます。その取り組みとして4月から行ってきたことを紹介します。

**2 学期の取り組み**

これまでは、学級ごとの一斉授業がほとんどでした。2学期は一学期からスタートしたT・T指導に加えて……。

学習内容や学習方法などに応じて、学級をグループ(コース)に分けて別々に授業を行う

**<少人数指導>** を行う予定です。



グループ分けには以下のような種類が考えられます。

- ①学級を等質に分割する。
- ②興味関心によって分割する。
- ③習熟度によって分割する。

<b>国語科(低学年) T・T指導 算数科(高学年) T・T指導</b>	より確かな学力の定着を図るため、二人の教師がチームを組み、協力して授業を行うチームティーチングを始められています。このように子どもの学習の進度に応じた指導方法を工夫しています。
<b>学習規律</b>	当たり前なことだけどとても大切なこと! 「聞く姿勢」「声の大きさ」「ノートのとり方」「発表の仕方」「時間の厳守」自分で意識して気をつけることが重要。
<b>パワーアップ朝会(計算・漢字)</b>	計算タイム(水)・漢字タイム(金)、前学年の問題から始めています。つまずきをじっくり見直し、練習します。
<b>読書タイム</b>	15分間自分の読みたい本に読みひたります。担任もいっしょに読んでいます。
<b>学力補充タイム</b>	週1時間、算数・国語を中心にわからなかった所、もっとやってみたいこと、ドリル学習などに取り組んでいます。
<b>家庭学習の仕方</b>	家庭学習の時間(低)20分・(中)30分・(高)40分からスタート。連絡帳での確認。おうちでもご協力ください。
<b>生活実態アンケート</b>	基礎学力をつけるにはまず生活習慣の定着が大事! 早寝早起き・朝食をとるなど規則正しい生活を。
<b>学習意欲アンケート</b>	子どもたちの実態から、より学習意欲を高める指導法の工夫改善に取り組んでいます。



①の場合は、それまでの学習状況や事前のチェックテストに基づき学力的に同じレベルになるようコースを編成します。例えば、運動会の赤組白組に分けるようなものです。



その他の場合は、子どもたちが自分で選択します。その際、コースの中身を子どもに説明し、自分で選ぶことができるようにします。③の場合についても、チェックテストにより輪切りにするのではなく、あくまで子ども自身にコースを選ばせるようにします。子どもたちは、コースの内容と自分の学習の様子を自分なりに考え、コースを選択することになります。

まだまだ取り組みはスタートしたばかりです。「勉強が楽しい」「わかっておもしろい」「もっと知りたい」という子どもたちの声がたくさん聞けるように、職員一同がんばっていきたいと思います。  
子どもたちを真ん中に学校・家庭・地域が協力し合い、理解し合って、子どもたちのより健やかな成長を支えていきたいと考えております。これまで以上に、保護者の方のご理解・ご協力をよろしくお願いいたします。

